

## 腹話術師 花島二郎 (本名: 土橋和秀) を偲ぶ 尾崎一夫



「花島二郎さんが亡くなった」思いがけないこの知らせを受けた私の脳裏には過去の思い出がよみがえった。日本で再会してからは度々浅草東洋館で演芸を楽しませてもらい、HCJB 日本語放送50周年記念の時は、祝賀会の淀橋教会に宇宙服で現れてくれた。人形とのかけあい漫談で会場を沸かせたが、これは宇宙飛行士毛利衛さんとのインタビューに同行させてもらったおかげなので、こんどはそのお礼にと、私を群馬県の万座温泉に招待してくれた。フロアショーの幕間にホテル経営主の泉堅氏との対談も取材させてもらった。

ふたりの再会のきっかけは「ラジオ」だったのだ。ある日、民放のラジオ番組で私の声をきいた花島さんは番組を聞き終わると、すぐにペンを執って手紙を書き始めた・・・

＜覚えていらっしゃるでしょうか。33年前、伊豆天城で腹話術の講習会で一緒でしたね。思いもかけず、永六輔さんのラジオ番組にシカゴから尾崎さんが飛び出してきたので驚くやら懐かしいやらでお便りしました。私は、いまでも社員勤めに変わりはありません。腹話術は、33年間のアマチュア時代を経て、やっとプロの先生たちのお許しが出て、東京演芸協会(会長: 牧伸二)所属になり浅草の東洋館や上野広小路亭などの寄席に出演させてもらっています。芸名は花島二郎。会社の休日には無報酬の笑いのボランティアとして、子供会、敬老会、病院、高齢者施設などを訪問させてもらっています。2006年には、米国ケンタッキー州で開催された腹話術の世界大会に日本代表で参加することができました。日本の腹話術師の実力とレベルを指し測られる場とあって、当日、会場のホテルに着いても、一向に気が安まりませんでした。500名の参加者を前にしてよい出番です。私は日の丸の鉢巻きに袴をつけた剣道着姿で、ヌンチャクと日本刀をふりまわして登場。更に江戸独楽を演じ、ムードが盛り上がったところで、私の秘蔵人形エルヴィス・プレスリーが登場すると会場は拍手と口笛の嵐。この人形は日本の文楽人形師が1年半かけてつくった逸品です。そしてふたりで軽妙なトーク。私が「英語話せる」と聞くと、「いや話せないよ」と受けるエルヴィス。「どうして」ときけば、「あなたが英語を話せないから」。そこで、またまた会場は爆笑の渦、渦。日本も米国も《笑い》に国境はありません。その後、エルヴィスがグラミー賞を受賞したゴスペル How Great Thou Art! (わが魂いざたえよ)を日本語で高らかに歌い終わると、さらに会場は拍手と歓声で興奮は治まらない状況となりました。演技を終えると客席のクリスチャンがハグしてきたり、楽屋に大会主催者が飛び込んできて私に抱きつき、

「Good Job!」と祝福してくださいました。腹話術は芸能の一分野ですが、同時に近年、欧米などでは、医療施設、教育現場でのケアやセラピーに活用されています。《笑い》を通じて観客に癒しや活力をとって行っていますが観客との触れ合いで、逆に私が活力や喜びをもらっている部分も多くあります。それが、平日の会社の仕事に還元されているのだと思います。ある高齢者施設で一流企業を退職した男性がいて、演技中は口はきかないし無表情。ところが、公演後にその人が人形と握手をした時にニコッと満面の笑みを浮かべたことがありました。また、ある子供向けの催しで、ぜひ人形に触ってみたいといわれたので、みるとそのお子さんは目をご不自由でした。その気持ちが痛いほどよくわかり思う存分触ってもらいました。そういうことから一生腹話術をやめられません。＞

この言葉どおり、花島二郎は腹話術街道をひたすら駆け抜けた人だった。

追記: 花島二郎さんの訃報をきいた友人のひとりがネットにこう投稿した。「私は花島二郎さんとは100回以上ボランティア公演をともにし、各地のお祭りなどでもいっしょでした。その果敢な行動力と腹話術への情熱に多くを学ばされました。本当に惜しい人でした。」この書き込みの横には自宅玄関の表札の写真が添えてあった。この表札の名前の人はもうここにはいない。その人はこの世で数え切れない人々に笑いを届けながら、勇気づけ、優しさを与え、痛みを和らげ、慰めをあたえて旅立って行ってしまった。。しかし、きっと今頃は、天国の住まいに新しい表札をかかげて、隣人からの公演の申し込みを待っているに違いない。

花島二郎よ、永遠なれ!

## サタデー・トーク

## バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送

淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送

11月04日	アメリカ各地めぐり歩き 外山芳弘	11月05日	宗教改革五百周年特別番組: 我ここに立つ
11月11日	追悼番組: 腹話術師 花島二郎 (1)	11月12日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇への旅路
11月18日	追悼番組: 腹話術師 花島二郎 (2)	11月19日	リスナーからの「お便り交換の時間」
11月25日	BCL対談 大武逞伯 X 赤林隆仁 (1)	11月26日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇への旅路

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間: 日本時間 午前7時半~8時 15400kHz (再放送) 午後8時~8時30分 15400kHz  
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)